

2019年度第2回放送番組審議会 議事録

開催日時 2020年2月21日（金）14時から15時
開催場所 三次市防災センター 1階会議室
出席者委員 添田龍彦・重信富子・千崎由博・山岡幸子・岩崎積・前田茂・石田睦子
欠席者委員 中村好宏・平岡淳・宗清弘樹・上野俊英
説明員 株式会社三次ケーブルビジョン
新宅代表取締役社長・林常務取締役・津田営業課長・向井制作課長
植木管理課長補佐・田丸制作課員

- 1 開 会 定刻になり事務局が開会を宣言。
続いて代表取締役社長が開会にあたって挨拶する。
- 2 会長挨拶 添田会長が挨拶を行ない、放送番組審議会の目的に沿って、多種多様な立場から選出されている委員の皆さんには、それぞれの立場から忌憚のない意見を出していただきたいと述べる。
- 3 審 議 審議に先立ち、2019年12月16日・23日に放送した情報ストリート「あっちこっち三次」の『みよし歴史さん歩 ～江の川 舟運の跡～』について、担当ディレクターが資料に基づき企画意図及び番組概要を説明。（事前にDVDを送付した）

会長(司会) 視聴いただいたDVDの内容について、審議内容のポイントに留まらず、忌憚のない意見をお願いします。

委 員 川は三次のシンボルにもなっている大切なものであるもので、企画されて大変よかった。当時と今はかなり様子が変わっているので、当時を想像することは難しいと言われていたが、写真などで補ってとてもよく表現されていた。

尾関山付近の水流の様子もドローンを使用して、臨場感あふれる映像であった。立畑さんの解説も長年にわたり研究されているので、語りもとても分かりやすかった。

個人的には、荷超しの瀬での荷の積み下ろしの場所・状況等もう少し詳しく知りたかった。昔の様子を想像しながら見ることができたので、放送時間はもっと長くてもいいのではと感じた。

委員 今までの放送よりも、わかりやすく年配の方は再放送もあって、何度も視聴して記憶に留めることができる。風景映像の時、カメラの移動が速すぎて映像を見ていると、目に違和感があったので、もう少しゆっくりカメラを移動させてほしい。

委員 歴史自体に興味は薄かったが、わかりやすい立畑さんの解説もあり、現在と昔の生活が直結していることを感じ、食い入るように見ることができた。立畑さんの解説もパネル等を使用して、ゆっくりしたペースでとても分かりやすかった。

映像が作木に飛んだのは、時間の関係上やむを得なかったのかもしれないが、基本的に全体を同日に放送した方がわかりやすかった。

委員 舟運という言葉自体なじみがなかったが、今現在は、川の水位も下がり川らしくなくなってきているが、昔は子供たちをいかだに乗せて、川下りをしたこともあった。番組自体の長さもあるので、なかなか難しいかもしれませんが、あえて川を下る等の試みが放送の中であってよかったのではないかな。

委員 三次にはいろいろな歴史が詰まっているので、歴史企画自体はとてもいいと思う。

川を使って舟で荷物を運んでいた事は聞いてはいたが、なかなかイメージできなかったが、今回の映像でイメージできてよかった。写真を使用して紹介したものもあったが、量的に少なく若い世代がイメージするには、難しかったかもしれない。三次には昔の写真や話を持っている方もいるので、取材して、もっと具体的な内容を放送してもよかった。舟運の時代背景、生活状況もあればよりイメージできたのではないかな。

歴史の多い町なので、今後も紹介してもらいたい。

委員 作木に勤務していた経験があり、作木の地名が、舟運の難所からきている事を今回の放送をみて知った。歴史が消えゆく中で、人から人へ語り継がれて、つながっていると感じた。

番組審議会ではどういう視点で意見すればよいのか、なかなか理解できなかったが、審査内容のポイントについて案内してもらい助かった。事前にいただければなおよかった。

三次・作木の町がにぎやかだった事を、文字の羅列で表現するよりも、なごりの残る店など、映像を通じて見せてもらった方がよかった。竹岡さんと立畑さんしか出てこなかったが、もっと詳しい住民のインタビューがあったりすれば、魅力的で温かみがあったと思う。

三次の歴史を知れば知るほど、三江線の廃止は大変なことだと感じる。改めて重く受け止めている。

歴史さん歩は、米丸さんが古墳の事を放送されたりして、子供たちのいい教材にもなりうる放送だと思う。

委員 今回の放送を見て子供のころ川と親しんで遊んでいたことを思い出しながら番組を見ることができた。また、今回の放送ではじめて知った場所もあった。舟運で内町が栄えたという事であるが、昭和47年の水害以降、護岸工事などで面影がなくなり、交通機関の発達により舟自体が衰退していつてしまった。三次の歴史の中で、帆をかけた舟をいろいろなところで見ることがある。にぎやかな舟を使用して地域に必要なものを運んでいたが、当時は動力もなくすべて人の手で運んでいた。作木に展示してある舟も大きく、当時の舟頭さんのプロというものを感ずることができたし、解説も内容が的確で非常に良かった。

委員 舟運が行われていた時期の、川の水深はどのくらいあったのか。

会長（司会） 今のように、上流にダムはなく、川幅も今より広くはなかったであろうことから、水深もかなりあったと思われる。

社 側 具体的な数字はもっていないが、会長のおっしゃるとおり、ダムもなく水深は、今よりもかなりあったと思われます。

委員 馬洗川から江の川を昔、嫁入りダンスを舟で運んだ。何棹ものダンスを乗せて運べるのだから、かなり水深はあったでしょう。

委員 普段は穏やかでも豪雨になるとすごい水流で、川の怖さを改めて感じたが、昔はダムもなく水量は大変なものであったと想像する。

会長（司会） 三次は三本の川が一つになるから、すごいスケールになる。今ほど橋が整備されておらず、昔はあらゆるところに渡し舟があったと聞いている。

委員 2015年4月からみよし歴史さん歩を始められたと聞いたが、過去にはどのようなものを取り上げてこられたのか。

社 側 産業に関するものとして、紙・養蚕・石炭・石灰、地名にまつわる紹介では、十日市、たたら製鉄、戦国時代の山城や合戦跡など取り上げてきた。

委員 江の川には、漁労文化もある、風土記の丘に展示物もあるので、取り上げてもいいのではないかと。

会長（司会） 企画映像・時間などで感じることはありませんでしたか。

委員 時代背景について、もっと詳しく伝えてほしかった。鉄道など陸運になり舟運が衰退していく様子をシリーズ化にしてはどうか。

川の文化、集落など風土記の丘には、取り上げる材料が豊富にあるのではないかと、物語をシリーズ化して、古墳などと組み合わせる制作すれば、もっと広く三次の事がわかるのではないかと。

会長（司会） 舟運は、舟頭さんの集まりであったのか、大きな商売人がされていたのか。

社側 舟頭さんの集まりで、個々でされていた。

委員 三次の歴史シリーズとして放送をみても勉強になる。これまでに放送したものを生かしていくためにも、たくさんの生徒さんにみてもらえれば、今後につながるかと考えている。

委員 いろいろな所で疑問をいただきながら見ている。高瀬舟にスポットをあてるなど深く切り込んでいくシリーズがあってもいいのではないかと。

委員 作木に展示されていた、高瀬舟は、実際に使用されていたものですか。

社側 復元されたものです。

高瀬舟は、舟運でも使用されていました。舟は改良がされ細いものから大きなもの、様々な舟がある。

委員 作木に展示されている舟は、高瀬舟ではなく、あの大きさを帆を張れば倒れてしまう。

社側 放送した舟は、時代の中でメジャーな大きさの舟といえる。

歴史さん歩のコーナーが5年前に作られたきっかけは、スタッフだけではできないことで、三次の地方史研究会の方が調べられた、資料や知識を基に放送が始まった。当初スタジオで収録していたが、内容が専門的すぎて難しく、視聴者に受け入れられなかった。そこで理解しやすいように視聴者目線に竹岡さんが立って、分かりやすく質問するなど番組作りを改良してきた。地方史研究会

の方の力がなければ、月に2回のペースではとてもできていない。資料集め、許可申請作業等すべて、研究会の皆さんが対応して下さっている。研究会の協力体制のもと成り立っているコーナーといえる。

会長（司会） 地方史研究会の方は、元学校の先生が多いですね。

委員 研究員の方は、何十年も研究されているので、三次の財産的存在でもあり、今のうちに映像に乗せたほうがいい。

会長（司会） 歴史さん歩の時代は、時系列になっているのですか。

社 側 残っているものも様々で少ないものもあり、前後してしまっている事もある。資料と地域の話が重要になってきている。

会長（司会） カメラ映像にドローンも使用されていたがいかがでしたか。

委員 ドローン映像が、荷超しの瀬・タツノクチなど、たくさん使われ、わかりやすかった。

会長（司会） ドローンの映像は、臨場感があってとてもいいが、番組内容によってはドローンでなくてもいいものもあるが、自然のものを対象とするとなると大変良いと思う。感じられたことなどあれば、遠慮なく発言してください。

作木の港で、各商店の広告もあったが、三次から江津までの30か所の中でも、作木はかなり大きな港だった。

社 員 三次の町がにぎやかになった理由として、交通手段の発達で商売へと繋がり、人を集めてきた。現在、三江線の廃止など、衰退していつている中で、今後の展開にも大きくつながることだと感じた。

昔は、行商人が1時間以上かけて商売をしに三次へ来ていた、人のパワーというものを感ずる。

委員 身近なところの内容であると、食い入るように見て時間が足りないくらいだった。歴史さん歩は作り甲斐のある作品であると思う。いろいろな声が届いているとは思いますが、ドローンの映像も工夫されていて、時間はもっとあってもいいくらいで、今後は人からの話が聞ける様であれば、第二弾として交通と商売の密接な関係について放送してはどうか。

- 委員 高齢者の方には、昔の映像も出てくるので、ファンも多くつくと思う。
- 委員 高齢者だけではなく、孫が 11 チャンネルを楽しみに見ている。子供たちにとって知るという意欲をそそられる内容となっている。
- 委員 一過性の情報の世の中で、繰り返し見れることはいいことだと思う。
- 会長（司会） 子供の記憶に蓄積されるものになると思います。
- 委員 舟が何年ころから何年まで使用されていたかなど、わかればなおよかった。
- 委員 船底からの高さが 50 センチもあれば浮くが、帆を立てれば話は別で、ヨットは舟底が深いから風を受けても安定して倒れないが、作木に展示されているものに帆をかければ倒れるかもしれない。
- 委員 交通の発達に伴い舟運も廃れていったが、なくなっていったものに感謝しながら見れたら素晴らしい。
- 委員 漁労文化と舟運はある程度、並行しているのではないか。鮭にしても江の川を上ってきていたが、舟運の衰退とともに上れなくなった。
- 委員 護岸工事の影響で鮭は上れなくなったと思われる。
- 委員 いかだで下る時も、作木から先は難所続きだった。
- 委員 川から見る陸、陸地から見る川の様子はかなり違う。
- 委員 現在は川から陸を見ることが、ドローンを使用してできるようになった。ドローンの活用方法はたくさんあると思われる。いい時代になり、今後の映像にも期待します。
- 社 側 歴史さん歩も 120 回近くの放送となる。図書館でも DVD にできないかという話もあった、知的財産ということも意識しながら、撮り重ねながら、より深みを持たせ貴重な教育材料となればと思っている。
- 委員 DVD を学校で持つことはできないか、広島県教育も図書館の在り方につ

いて構想を練られている。学校や図書館といった、近しいところでいろんな場所にあれば目に触れる機会も多くなる。

社 側 著作権・許諾権・肖像権等注意して撮影していく事もあり、教材として使用する前提として撮影していく必要もある。また資料映像自体に許諾が必要になってくるものもあるので、今後はDVD制作も前提に考えていきたいと思う。

委 員 高校も図書館の改革をしつつあるが、文字で読むのは難しくても、映像でみたら理解ができるという事もある。

社 側 色々意見はでていますが、歴史さん歩自体が、内容の面では深く追及するに至っていないのが現状で、ポイント紹介と捉えていただきたい。地方史研究会の方に頼りながら作成しているのが状態であり、時代背景等も取り入れながら、伝える内容を整理しながら制作していきたいと思う。

委 員 今後もののけを取り上げていただきたい。浅野氏入城 400 年にもなっており、三次のかかわりも深いので、一つの材料とし取り上げてもらいたい。

社 側 歴史映像を使用してわかりやすく、地域の歴史を紹介する役割を担う部分であり、端的にわかりやすく、当社のライブラリーをネットでアクセスすれば見ることができるようなことも、将来的には考えていくべきだと考えている。

会長（司会） 皆さんの意見が出揃ったようです。本日はたくさんの貴重な意見をいただきました。これで放送番組審議会を終了する。

4 閉 会 事務局が、本日の審議会の模様を今日のニュース番組「情報ストリート、あっちこっち三次」で放送し、議事録を HP に掲載すること、それに来年度 1 回目の番組審議会は 9 月に開催予定の旨を伝え、閉会する。